

プリオン病の剖検率向上を目指した体制構築と プリオン病剖検リソースの確立

研究分担者: 埼玉医科大学国際医療センター 高尾昌樹

剖検例

- 29年度は4例で、硬膜移植例(全身剖検)を含む。
- 全体で40例を超えるリソースとなった。

病理

- 抗プリオン抗体3F4(109-112)に加え、12F10抗体(144-152)を導入し、良好な結果を得ることで、病理診断精度を改善。

新規施設

- あらたに、今後の剖検を依頼していただける施設が追加。

解 説

1. プリオン病の剖検数が順調に増加し、病理学的診断精度の改善を行った。
2. 今後、剖検を依頼していただく施設の拡充も達成できた。
3. 「プリオン病の診断基準の策定・改訂」、「診断基準・重症度分類策定・改訂のための疫学調査」に貢献できた。